

研究・調査報告書

| | |
|---|-------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 209 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Associations of light and moderate maternal alcohol consumption with fetal growth characteristics in different periods of pregnancy: The Generation R Study 低から中等度の妊娠中の飲酒と妊娠中の異なる時期における胎児の成長の関連について: The Generation R Study | |
| 執筆者 | |
| Bakker R, Pluimgraaff LE, Steegers EA, Raat H, Tiemeier H, Hofman A, Jaddoe VW. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Int J Epidemiol. 2010;39:777-89. | |
| キーワード | |
| 飲酒、胎児の成長、妊娠、コホート研究 | |
| 要 旨 | |
| 目的： 妊娠中の過度の飲酒は胎児の成長や発達に悪影響を与える。しかし、妊娠中の低から中等度の飲酒と子孫の健康についての一貫した関連性は示されていない。今回、低中等度の妊娠中の飲酒と妊娠中の異なる時期に測定された胎児の成長の関連について研究を行った。 | |
| 方法： 一般住民から 7333 人の妊娠中の女性を対象としたコホート研究である。飲酒習慣と胎児の成長は、妊娠早期(17.9 週未満)、中期(18-24.9 週)、後期(25 週以降)に調査した。飲酒量 (全く飲まない、週に 1 杯未満、週に 1-3 杯、週に 4-6 杯、1 日 1 杯、1 日 2-3 杯) が胎児頭囲径、腹囲径、および大腿長に及ぼす影響について評価した。 | |
| 結果： 37%の女性が妊娠中に飲酒を継続しており、大部分が週 3 杯未満の量であった。また胎児頭囲径、腹囲径、および大腿長の成長率について、非飲酒妊婦と飲酒妊婦との間に差は見られなかった。非飲酒妊婦と比較して、飲酒妊婦では胎児体重の増加が高値であった【差 0.61g(95%信頼区間 0.18-1.04) per week】。妊娠中期および後期における横断研究では、飲酒量と胎児成長特性に一貫した関連は認めなかった。全ての分析で潜在する交絡因子を調整した。 | |
| 結論： 低中等度の妊娠中の飲酒は妊娠中の異なる時期に測定された胎児成長特性に悪影響を与えなかった。中等度の妊娠中の飲酒が出生後の臓器の発達、機能に与える影響について評価する研究が今後必要である。 | |